

日本語ドメイン名協会設立趣意書及び計画

2001年5月15日

日本語ドメイン名協会設立準備委員会

シンガポール大学/APNG で始まった、自国語の文字を使用して表記できるドメイン名システム (DNS) の開発の動きは、インターネットプロトコルの標準化を行っている IETF(Internet Engineering Task Force)における作業部会 [Internationalized Domain Name Working Group\(IDN WG\)](#)の構成、標準化の推進へと順調な進展を示していて、本年内の標準化(RFC 化)を目標に活発に活動しています。この中で、わが国では[社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター](#)(以後 JPNIC)がドメイン名システム(Domain Name System)の標準実装である [BIND](#) に多言語ドメイン名処理機能を組み込むためのソフトウェア [mDNkit](#) の開発を進めています。mDNkit は BIND に添付された形で国際的に流通し始めると共に、ソースコードも公開していることから、多言語ドメイン名処理の参照実装としても活用され、技術革新にも貢献しています。

また、わが国でも日本語ドメイン名の登録受け付けが[株式会社日本レジストリサービス](#)(以後 JPRS)で開始され、活発に登録されています。

このようにユーザからは、“判りやすい”日本語ドメイン名に対する期待が高まっていて、インターネットが一層普及するためには、日本語ドメイン名を扱うことのできるアプリケーションソフトウェアの早期開発・普及が強く期待されているところです。

このため、すみやかにアプリケーションソフトウェアを開発・普及させるための、日本語ドメイン名に関する包括的な活動を推進する団体を設立する必要があるとの結論に達しました。これが今回の趣意書にあります「日本語ドメイン名協会」です。英文名を Japanese Domain Names Association(JDNA)と称します。

日本語ドメイン名協会設立概要

対象

日本語ドメイン名に関わる全ての活動を行う個人及び団体

想定される具体的な活動

多言語ドメイン名に関する情報交換 (Web サイトの運用、ワークショップの開催等)

日本語ドメイン名に関する標準化活動 (使用可能・不可能文字種等の規定)

日本語ドメイン名ツールキットの開発 (mDNkit の事前評価、mDNkit の一部機能を利

用したプロキシーサーバの開発等)
開発プロジェクト、翻訳プロジェクト等の支援
試験環境の提供と試験の実施・報告

会員等

会員については、正会員、特別会員、賛助会員を設ける
正会員は別途定める規定により年会費を納入する法人
特別会員は理事会の承認を得て年会費を免除された法人および個人
賛助会員は会の活動に賛同し援助を行う法人及び個人

予定

2001年5月24日 設立計画発表
2001年6月20日 発足

連絡先

日本語ドメイン名協会に関するご連絡は jdna@nic.ad.jp までお願いします。

日本語ドメイン名協会設立準備会メンバ

後藤 滋樹 (早稲田大学 教授)
東田 幸樹 (JPRS)